

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)	授業形式									
E132J003		美術科授業研究(中等) (Studies in Teaching of Art (Junior High School))															
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員											
選択	2	3	教育学部 令和2年度 以降入学生用			氏名 藤井 康子  E-mail fujii-yasuko@oita-u.ac.jp 内線 7595											
授業の概要	中学校美術科及び高等学校芸術科(美術)の学習指導要領解説に基づき教育理念と教科目標、教科内容、指導法について概括し、青年期の造形表現と美術科教育への理解を深める。また、美術の授業構成と評価の在り方を学びながら教材開発を行い、学習指導案を作成して、教育現場において実践する。																
具体的な到達目標						DP等の対応(別表参照)	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	
目標1 美術の授業構成と評価に関する基礎的な知識を習得する。																	
目標2 基礎的な教材開発を行い、授業プランを構想し学習指導案を作成する。																	
目標3 教育現場での実践を行う。																	
目標4																	
目標5																	
目標6																	
目標7																	
目標8																	
目標9																	
目標10																	
授業の内容																	
1 中学校・高等学校における美術教育の意義と教科目標及び内容について																	
2 学習指導要領の内容と構造の理解																	
3 学習指導要領における学習目標「知識及び技能」の指導と評価																	
4 学習指導要領における学習目標「思考力、判断力、表現力等」「学びに向かう力、人間性等」の指導と評価																	
5 学習指導と評価の在り方 - 相対評価・絶対評価・到達度評価等																	
6 教育評価資料の活用と保存について																	
7 美術科教科書の内容 - 海外の教科書との比較からみた日本の中学美術科の在り方 -																	
8 演習課題 実践内容の題材設定、対象学年、用具材料の検討																	
9 演習課題 教材研究、作例制作																	
10 演習課題 教材研究、学習指導案の作成																	
11 中間報告と研究討議																	
12 演習課題 実践内容の再構築																	
13 演習課題 模擬授業																	
14 教育現場における実践																	
15 教育現場における実践																	
ラーニング	A:知識の定着・確認	演習では、学生が教材研究の進捗状況について毎回発表を行い、学生同士で相互に意見交流をしたり改善案を指摘する時間を設ける。					工夫	その他の									
ラーニング	B:意見の表現・交換																
ラーニング	C:応用志向																
ラーニング	D:知識の活用・創造																
時間外学習の内容と時間の目安	準備	教材開発に必要な用具・材料に関する知識について、資料や文献等を読み事前に学んでおくこと。(10h)															
	事後	用具・材料について関心を持った事柄を各自でさらに調べ、理解できないところがあれば教員に質問し、自らの具体的な指導観の構築につなげること。(15h)															
教科書	<ul style="list-style-type: none"> <li>文部科学省『中学校学習指導要領解説 美術編』平成29年告示。</li> <li>文部科学省『高等学校学習指導要領解説 芸術(音楽 美術 工芸 書道)編 音楽編 美術編』平成30年告示。</li> </ul> この他、必要に応じて資料を配布する。																
参考書	<ul style="list-style-type: none"> <li>国立教育政策研究所教育課程研究センター『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料』、令和2年3月。</li> <li>国立教育政策研究所教育課程研究センター『学習評価の在り方ハンドブック』(高等学校編)、令和元年6月。</li> <li>中学美術(令和3年及びそれ以前のもの)、高校美術(現行及びそれ以前のもの)の教科書。</li> </ul>																
成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10					
	レポート課題	30%															
	指導案の作成・演習への取り組み	70%															
注意事項	教材開発に必要な用具・材料は、各自で準備すること。																
備考	この科目は『地域創生教育科目』です。																
リンク																	
	URL																